番組審議会
第６４０回

令和２年７月

■審議会の構成　　委員総数　　１０名

委 員 長　　音　　好　宏
副委員長　　中　江　有　里
委　　員　　江　澤　佐知子　　尾　縣　　貢
　　萱　野　稔　人　　喜田村　洋　一
　　佐　藤　智　恵　　長　嶋　　有
　　藤　原　帰　一　　水無田　気　流

ＴＢＳテレビ　佐々木　社　長
　　渡　辺　常務取締役
　　伊佐野　常務取締役
　　岩　田　取締役
　　瀬戸口　編成局長
　　江利川　総合マーケティングラボ
　　シニアサイエンティスト
　　（ＴＢＳＨＤ）
　　佐　野　総合マーケティングラボ
　　データマネージメント部長
　　（ＴＢＳＨＤ）
　　吉　賀　総合マーケティングラボ
　　データマネージメント部
　　（ＴＢＳＨＤ）
　　中　山　編成考査局長
　　鈴　木　編成考査局視聴者サービス部長
　　岩　村　番組審議会事務局長

■ 今回の審議会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、一堂に会しての会議形式とせず、書面を用いての開催とした。

■議事概要

（1）審議事項

1）「昨今の視聴率の状況とＴＢＳの取り組み」について報告

2）その他

（2）事務局報告事項

1）視聴者からの声について

2）次回審議会の議題及び日程について

【委員の主な意見】

（「昨今の視聴率の状況とＴＢＳの取り組み」について）

□ 個人の価値観や嗜好が多様化した時代において「世帯」を単位として視聴行動を測ることには限界があり、ＴＢＳが個人全体視聴率へのシフトを積極的に進めていることはもっともだと思う。

□ 各番組を視聴した人数が明確に示されるようになることは、テレビの価値や影響力を測るうえで極めて有益だ。

□ 個人の価値観や嗜好の多様化はかなり以前から指摘されていたのだから、本来ならもっと早く個人全体視聴率へ転換してもよかったはずだ。今回の転換が「ネット等によってテレビの地位が脅かされるようになったから」といった理由にもとづくのであれば、それはテレビ業界が外圧からしか変われなかったということを示しているのではないか。

□ 新聞など公の大きな報道で取り上げられるのが世帯視聴率である限り、世間全般の「印象」は揺らがないという気もする。業界全体で新たな基準の統一が図られていくのが、作り手、受け手双方に望ましい。

□ いずれ、テレビ視聴だけでなく、あらゆるジャンル（ＳＮＳ、サブスクなど）で「人々の時間をどう分け合ったか」を見通せるようになっていくのがフェアだし、そうなっていくような気もする。

□ テレビ業界が若者から敬遠される要因の１つとして、「自分が作りたいものは作れず、高齢者向けの番組を作り続けなくてはならない」という現実がある。新しい視聴率指標の導入で、若者が自分たちの世代向けのものを作れる環境が生まれるのであれば、テレビの未来にとっては望ましいことであろう。

□ コロナ関連情報について信頼のおけるメディアとして、ネットニュース以上に「テレビ」を挙げる人が多くなっており、テレビ報道の信頼性と影響力の大きさが再認されたと感じる。今後の課題として「視聴者の感情に寄り添いすぎない」番組作りが重要だ。エモーショナルな報道は視聴者の負の感情を増幅しかねない。ＴＢＳには引き続き、ファクトに依拠し視聴者に正しい行動の選択肢を提供する番組作りを期待したい。

□ コロナ禍によるテレビ接触の増加については、すでに報道されているところだが、感染予防のために番組制作を中止したり、編成・制作の変更を余儀なくされたと聞いている。これらの判断に対する結果としての視聴データは、コロナ後のテレビを考える上でも、多くのヒントを残したのではないか。

＊ ＴＢＳでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。　　（ＴＢＳテレビ番組審議会事務局）